

平成24年12月7日
発行責任者 小堀道和

震災から1年9ヶ月が経過しました。津波で押し流された被災地は更地になったところもありますが手つかずのままの状態に取り残されている所が今なおほとんどです。それでも道路や崖崩れを修理する工事が少しずつ始まっていると目立つようになってきました。



震災1年9か月石巻市渡波地区の街の様子

「もっとひどいところがあるから工事をする順番を待つしかないんだ」と言っていた浜の人たちの言葉を思い出し、少しほっとします。

生活基盤である海産物の加工設備や建物が建ち始めたところもあり、笑顔が戻る場面を見て嬉しくなります。

被災された皆さんにとって高台移転等すぐには解決しない問題が山積していて、滅入ってしまうことが多いと思います。日本中のみんなが応援しているよという気持ちを伝えることがこれから益々必要になります。例えば小さなことでも、できることをできる範囲で今が活動する時と信じてこれからも活動していきたいと思います。



復旧工事が始まった鮎川浜の様子



復旧工事が始まった鮎川浜の様子

栃木県ガールスカウト指導者と龍 JIN とのコラボレーション活動

ガールスカウト連盟から龍 JIN の心寄り添うボランティア活動を通してガールスカウト活動の活性化を図りたいので協力して欲しいと熱い要請がありました。ガールスカウトのイメージは自ら考え進んで行動する子どもを育成することであり、多くのリーダー的な子どもが育っていると思っていましたが、中々理想通りに進まないことと指導者の皆様も高齢化が進み益々活動が難しくなっている状況にあるという説明を受けました。

勿論、喜んでお引き受けしましたが実際に活動してみてガールスカウトの指導者の皆様の優しさや愛情溢れる行動を目の当たりにし私が一番勉強になった気がします。

本号は10月13日(土)から1泊2日で実施した栃木県ガールスカウト指導者とのコラボレーション活動について紹介いたします。



今回の交流計画の場所

事前研修として夢授業や子どもたちの参加した被災地でのボランティア活動で如何に子どもたちの能力が無尽大であり、成功の鍵は情熱と愛情であることと、それらを引き出せる先生や指導者という仕事は幸せいっぱいであることを多くの事例で紹介しました。

ガールスカウトの子どもたちを巻き込んで素敵な人材に育つようなプログラムを多くの傘下支部で考えてもらいたいと思い、今回のボランティア活動を被災地の皆様との交流会中心に計画することにしました。

朝5時前に張り切って栃木を出発

地元を5時前に出発し佐野市田沼の「道の駅どまんなか田沼」、宇都宮 IC、西那須野 IC と回り総勢28名で最初の活動予定地である石巻市鮎川小仮設住宅集会所を目指しました。

現在は東北の高速代が有料となったため渋滞することなく被災地に着くことができますがやはり牡鹿地区は遠く、お昼近くの到着になってしまいます。

但し、時間がたっぷりあるバスの中でビデオを活用し事前研修の補足説明や今回特に力を入れて計画したことなどの説明ができることなどメリットも多いのです。



バス内で DVD 活用の説明会

鮎川小仮設住宅集会所では鮎川地区の区長さんである古内さんの黄金寿司のくじら入りの寿司を食べながら現地の皆様に協力していただき交流会を実施しました。

いつも快く話をしてくれる泊浜の漁師である平塚さんご夫妻をはじめ古内さんの友人4～5名が集まってくれて被災前から現在の生活までの辛い話やそれに立ち向かう気持ち



古内さんと友人を囲んで



泊浜・平塚さんご夫妻と交流

などを聞かせていただきました。家や車や漁具などを失い仮設住まいでの生活にも関わらず「ここに来てくれることが一番嬉しいです。私たちは負けないで復興のために頑張りますので、これからも応援してください」と笑顔で話してくださるのです。平塚さんは全員分のホヤを獲って待っていてくれました。いつも申し訳ないと思いながら来て良かったと思う時間を過ごしました。

日用品はとてもありがたい 以外！！

今回、事前に現地の皆さんに「今、特に欲しいものがあつたら教えてください」とお聞きしました。何とトイレトペーパーや洗剤やタオルの様な日用品がもらえたらありがたいというのです。意外な答えでしたが、震災直後は支援物資もたくさん届いたが今やほとんど届かなくなり日用品を購入することが



日用品は助かります～荻浜仮設住宅

支援金だけの生活の中では苦しいのだとの話に驚きました。さすがにガールスカウトの皆様の行動力は素晴らしくたくさんの日常品が集まりました。多くの皆様にプレゼントすることができました。

久し振りに訪れた廿川漁港

今回の計画は1泊2日なので時間的に余裕があり、今年の5月以来久し振りに女川漁港に行ってみました。

きれいに更地になっていましたが基本的に浜の様子は変わっていませんでした。満潮時間に近いこともあり元々の岸壁がほとんど沈んでいて地盤沈下のひどさを目の当たりにしました。



転倒したままの建物～女川町

元通りの街並みになるイメージはいくら努力してみても頭の中では作れませんでした。

比較的活気を感じる女川魚市場でおみやげタイムを取った後、本日の宿である石巻市鮎川浜黒崎の民宿泰平荘に戻ってきました。

民宿泰平荘の阿部泰子さん家族を紹介します

石巻市新山浜で民宿をしていましたが大震災で宿が破壊されてしまいました。

さらに消防職員であった娘さんの夫を津波で亡くされ、ご主人までも心労で病死されるという大変な経験をされています。こんな辛い経験にも決してめげずに被災した仲間の手を差し伸べる活動を先頭に立って行っている時に私たちと知り合いになりました。彼女の素晴らしさは彼女と一緒に鮎川地区を歩くと一目瞭然に分かります。ほとんどの人たちが彼女にありがとうと言うのです。びっくりしました。

ボランティア活動の窓口になり救援物資を届けたり、仮設住宅の声掛け活動など彼女の後姿には常に心寄り添う一生懸命さがにじみ出ているのです。

彼女は民宿再建を諦めていませんでした。金華山の隣島・網地島が目の前に広がる場所を新たに求めて、残された前述の娘さんと4歳の雅(みやび)ちゃんと3人で新しい民宿泰平荘をやっていこうと決心し、実現したのです。

新泰平荘は工事が完成していないにも拘わらず、今回第一号宿泊者として泊めていただくことになりました。阿部さんには震災で無事だった長男夫妻がおられ、近くで漁師をしています。民宿の食事は彼が獲ってくる普通では考えられない豪華な海の幸が食卓に並びます。

これらを感謝と共に味わいながら阿部さんの体験談を傾聴する場に孫の雅ちゃんが登場しました。

「遠いところからお出でいただきありがとうございます。」

今日はたくさん食べてください。後で歌のプレゼントがあります」と笑顔で挨拶された時にはみんなの拍手と共に思わず涙がこぼれました。

楽しい夜の時間を過ごし、次の日の朝、太平洋に浮かぶ金華山沖から上るご来光にみんなの幸せを願って手を合わせました。

朝食後、ガール指導者の皆様が計画した贈呈式にも感動しました。外装関係が工事途中のため手を入れることはできませんでしたが、一人ひとりの応援メッセージの短冊をつけたハナミヅキをはじめ素敵な花壇を想定しての多くの球根や日用品等の贈呈式をガールスカウト指導者の皆さんの心こもった歌とともに贈呈しました。



地盤沈下で水没する岸壁～女川漁港



豊富な海の幸が並ぶ豪華な夕食



孫娘雅ちゃんの挨拶に思わず涙



心をこめた歌声と共にハナミヅキ他の贈呈式

阿部さんの涙を流しながらの贈呈式に私は心寄り添う活動の在り方をずーっと考えていました。

現在、牡鹿地区には5軒ほど民宿が営業を始めましたが、金華山航路及びコバルトラインが復興していないことと釣り場も地盤沈下で危険なため、お客は工事関係の方がほとんどで徐々に少なくなっているそうです。

是非、これを読まれているみなさんも民宿泰平荘まで足を運び阿部家を応援してください。



泰平荘の名刺～是非訪ねて下さい

泰平荘玄関で阿部さん家族と

被災地で清々しい汗を流したい

ガール指導者の皆さんから折角なので汗を流すボランティアをさせてもらいたいとの希望がありました。阿部さんと相談し、泰平荘のすぐ前の家で身体的なハンディキャップを持ちながらも地元の情報誌を手掛けている鈴木さん宅の庭掃除をすることにしました。私はエンジン付きの草刈り機を持参しましたが、大いに役立ちました。

鈴木さんはとても喜んでくれ、参加者全員清々しく汗をかくことができました。終了後の記念写真の笑顔が清々しさを証明しています。



鈴木さん(右端)と笑顔の記念写真、バックに網地島

阿部さんから震災で取り壊した前の泰平荘があった新山浜の様子も是非見て欲しいと提案され太平洋側の集落、新山浜に行きました。地震の爪痕の悲しさと共に金華山の見える海の青さの美しさを同時に味わう時間でした。阿部さん家族3人に見送られ牡蠣が自慢の石巻市荻浜に向かいました。

石巻市荻浜の牡蠣養殖の再建を支援したい

ガレキ処理や牡蠣養殖のお手伝いなど、ずっと交流を続けてきた荻浜地区生活の柱である牡蠣解禁日の10月に合わせ牡蠣購入を主なる目的とした経済支援ボランティア活動をいくつも計画しました。

今回の活動にもガール指導者の皆さんに事前説明し協力を呼びかけました。

しかし10月の解禁日に合わせて進めていた殻むき用建屋建設が職人や資材不足等で1.5か月も遅れ牡蠣購入が難しく、荻浜の豊嶋区長から謝罪され諦めかけました。



豊嶋区長と息子さん世代が迎えてくれました

牡蠣養殖の再建支援が目的なため、どんな形でも購入させてもらいたいし、そのために大変な仕事が発生するのであれば手伝わせてくださいと無理にお願いしました。事前に購入数を明確にし、発砲スチロールやパッキング袋、保冷具や各自で袋詰めする手袋などの準備をして浜の皆様の手間を出来る限り少なくすることで購入を了解してもらいました。

ガール指導者の皆様も喜んで協力してくれました。

荻浜では豊嶋区長さんはじめ息子さん世代を中心に多くの皆様が迎えてくれました。

津波被害の状況や今回の牡蠣は津波被害を乗り越えた「根性牡蠣」であること、産卵直後であるため身が小さいことや復興に向けて皆で頑張っていることなど説明していただきました。また、牡蠣にはムール貝が付着して牡蠣の成長の邪魔をするので通常はたたき落とすところ、今はムール貝の方が高価であること、牡蠣の1/3程度同時に獲れることなど丁寧に説明してくれサービス品として持って帰ってくださいと言われ、みんなの顔が「ヤッター」という表情になりました。建屋建設遅れが出荷の遅れとなり時期が遅れるほど牡蠣の値段が下がるそうでとても困っていると元氣なく説明されましたが、皆さんがこのように来てくれることが何よりも嬉しいことと喜んでくれたことがせめてもの救いでした。



牡蠣とムール貝の説明を聞きました

今回のような購入方法で迷惑が係ることがないか、もっと良い方法があるのかの確認をさせていただきましたが「手間も少なく金銭的にも助かりとてもありがたい」と区長さんから言われほっとしました。

420ケで4.2万円の金額を支払いましたがどれだけの経済支援になっているのだろうかとしり訳ない気持ちと浜の皆様への感謝の気持ちを胸に次なる石巻市門脇に向かいました。

荻浜仮設住宅に立ち寄り他地区と同様、日用品などをお届けしました。いつもの様に江刺さんや阿部さん他の笑顔に迎えられたたくさんの元氣をもらってしまいました。



荻浜元氣印の江刺さんたちを囲んで

石巻市門脇-尾形焼きそば店の「ありがとうハウス」建設を応援したい

門脇地区はいつ訪れても津波の爪痕が色濃く残っていて心が痛みます。この地区は石巻市の中心地の一つで2500人以上が犠牲になったところです。特に紅白歌合戦で長淵剛さんがサーチライトを照らしながら「ひとつ」を歌った門脇小学校は津波の後に火災に遭ったことで校舎右半分が真っ黒で、まるで原爆ドームを見ているようなのです。

尾形さんについては前号で紹介した通りラーメン屋さんで奥さんが主に焼きそばを担当していました。

津波で奥さんは未だ行くえ不明のままです。震災後3月末に奥さん愛用の焼きそばヘラが見つかった時に2番目の娘さんから「お母さんが、焼きそば屋をやリなよと言ってると思うよ」と焼きそば屋再開を勧めます。

いつまでもくよくよしては奥さんが喜ばないだろうと決心し、頑張っている姿を全国の皆様に見てもらうと鉄骨だけ残った家の横で焼きそば「味平」を始めたのです。



原爆ドームの様な門脇小学校



辛い写真を示し説明する尾形さん

何と昨年の B1 グランプリで尾形さんの焼きそばが全国6位に入賞しているのです。

有名な「がんばろう！石巻」の看板と慰霊灯がある場所のためたくさんの方が手を合わせに立ち寄ってくれます。そんな皆様に尾形さんは震災直後、たくさんの遺体を手厚く葬れない様子や行くえ不明の奥さんを確認する辛さを当時の写真を見せながら、それでも負けないで頑張っているのでもみんなも我々を忘れないで応援して欲しいと今回も一生懸命話されました。



「泣けちゃうよ」～後が「がんばろう！石巻」看板

そして、トイレも含めて何にもないところで皆さんに話を聞いてもらうのは申し訳ないのと門脇地区被災者同士の情報交換センターのためにも「ありがとうハウス」を建てたいとの熱い思いを話されました。

今回、尾形さんの説明を始めて聞いたガール指導者の皆様は涙を流しながらぼう然と聞きながらできる限りの応援をしようと考えていた人がほとんどだったと思います。

事前に尾形さんには今回のガール指導者の皆さんは一生懸命応援してくれる人たちばかりの女性たちで熱くハグされるかも知れないよと冗談を言っておきましたが、義援金や球根、日用品に加え一人ひとりの温かい応援の言葉に目頭が熱くなり「泣けちゃうよ」と何度も目を拭いていました。ハグ以上の喜びでした。

「ありがとうハウス」実現を期して

「ありがとうハウス」実現のために

帰りのバスの中でガールスカウトの藤田会長が「ありがとうハウス」を自分たちの組織力で実現させる活動をやろうと呼びかけました。栃木県ガールスカウトはタイに3つの図書館を作った実績があるので具体的な計画を検討していこうと話す姿には熱いものを感じました。今回の研修後、まだ建設に関しては進んでいませんがガールスカウトを含め龍 JIN や多くの団体と力を合わせれば必ず実現すると思っています。この新聞を読んでくださっている皆様も応援、よろしくお願いします。



今回の研修ツアーは感動の連続でした。

帰りのバスの中で龍 JIN 恒例の一言感想を話してもらう場面も含めて皆様のアンケートには

・「心寄り添う活動の素晴らしさを実感しました。帰ってからガールの子どもたちにどんな活動を働きかけるか考えたい」、

・「今回の研修ではかなり辛い場面を想像して暗い気持ちで参加したが被災地の皆様の前向きさに元気と勇気をもらった気がしています。もっと我々は頑張らねばと思いました」

等々、充実した2日間だったことが伝わってきて活動し甲斐を感じたと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ガールスカウト指導者の皆様はそれぞれ自分の支部に帰って傘下の子どもたちの優しさを引き出し魅力溢れる人づくりの企画を計画してくれることと思います。

今回の活動は地元下野新聞動画サイト DoSoon に紹介されています。ご覧ください。

<http://www.shimotsuke.co.jp/dosoon/town/nasukarasuyama/official/20121016/900823>

次号について

この報告書の後、多くの活動を目白押しに実施しました。新聞等で既に紹介されたものが多いのですが早い時期に夢新聞として皆様にお届けする予定です。